

# 学校の**安全点検**に関する取組事例

---

点検 教育 訓練 その他

## 芦屋市立宮川幼稚園

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 『4つのキケンを探せ！』園児参加型安全点検

所在地 : 兵庫県芦屋市  
 学校種別 : 公立幼稚園  
 園児数 : 28名  
 教職員数 : 8名

## 活動の概略

- 園児が、身近な環境の「キケン」に気づく体験をし、安全意識をはぐくむ。
- 点検実施前に、点検する上での目の付け所として、身近に潜む「4つのキケン」について、園児に対し説明を行う。
- 発見した「キケン」はタブレットで撮影し、先生と園児との間で振り返りを実施。身近な「キケン」を回避するためのアイデアを考え合う。

「4つのキケン」の考え方が、重要かつシンプルで、園児にも理解しやすく、継続して取り組むことができています。

大人目線では見過ごしがちなキケンに気付くことができるだけでなく、保護者と園児による家庭での自主的な点検行動も生まれ、幼稚園と家庭の連携による「命を守る防災・安全教育を推進」にもつながっています。



園長

## 活動内容

## ◎ 「4つのキケンを探せ！」園児参加型安全点検

- 点検実施前に、身近に潜む「4つのキケン」について、園児に対し説明を行い、点検する上での目の付け所を伝える。
  - 物が「動いてくる」から危ない。「倒れてくる」から危ない。「落ちてくる」から危ない。「割れる」から危ない。
- 園内の生活環境の中で「4つのキケン」を4,5人のグループで探す。各グループ1台のタブレットを配布し、園児が各々交代で、自分で「キケン」と感じた場所をタブレットで写真に撮る。
- 各グループに先生が引率するが、点検中は、引率の先生は口出しせず、園児の自主性に任せた記録を心がける。(大人の先入観を与えない工夫)
- 点検後の振り返りで、園児同士と先生で、写真を見合い「どうしてキケンだと思ったのか」そして「どうすればキケンでなくなるのか」を話し合う。
- 園児から指摘のあった箇所、安全である場合には、「どうして安全であるのか」の理由を、振り返りの場において、先生から説明を行う。(点検中に行うことで、園児目線のキケン発見に支障が生じないようにする工夫)

< 「4つのキケンを探せ！」 取組の様子 >



## 導入・運用時の課題と工夫

- 津波浸水想定区域指定を受けたことが契機となり、PTA・地域の方々からのご理解とご協力を頂けたこと、防災教育学会有識者の安全教育指導等により、導入・運用開始が可能となった。「4つのキケン」の考え方が、重要かつシンプルで園児にも理解しやすく、取組としても事前準備負荷も小さいため、取組継続にも支障が生じにくい。
- 点検中には園児主導で点検が為されることにより、大人目線では大丈夫だろうと思いがちな、キケン箇所の見過ごし防止につながると共に、先生が定期的実施する園内安全点検時の点検目線の精査につながる相乗効果も期待される。
- 保護者と園児による家庭での実践事例(高所設置物の配置換え等)も生まれる等、幼稚園と家庭の連携による「命を守る防災・安全教育」推進にも寄与している。

点検 教育 訓練 その他

## 今治市立乃万小学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「児童の視点を取り入れた運動場安全点検」

所在地 : 愛媛県今治市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 698名  
 教職員数 : 46名

## 活動の概略

- 生活安全委員会(児童委員会)の従来活動項目は、「運動場の整理整頓・整地」であったが、「運動場の安全点検」を活動項目として追加することで、児童の視点を取り入れた運動場安全点検を実施し、児童目線での運動場の「キケン」を把握している。
- 活動に参加した児童からは、日頃から学内の危険個所に気づいて教員に相談する行動が見られるようになり、安全意識の育みにも効果が見られる。

無理なく始められるよう、既存の児童委員会の一つである「生活安全委員会」の活動項目に「安全点検」を追加し、児童の視点で運動場に潜む危険を見つけ出せるように工夫しました。

日常的に、児童から不具合箇所を教えてくれるようになる等、安全意識・目線を育む効果もあると期待しています。



校長

## 活動内容

## ◎児童の視点を取り入れた運動場安全点検

- 令和4年度から、市教委において「児童の視点を取り入れた安全点検取組導入」が課題として挙げられていたことから、令和5年度2学期より新規取組として開始された。
- 児童委員会の一つである**生活安全委員会の取組**(運動場の整理整頓・整地)の一環として、月1回の頻度で、**運動場の安全点検を実施**することとした。生活安全委員会は5・6年生から成る19名で活動実施されている。
- 生活安全委員会の担当範囲である「運動場」を中心として、安全上気になるところ(子供目線での危ない箇所、ネジが緩んでいる等)がないかを点検し、不具合箇所を発見した場合には、児童から教員まで報告し、教員が現場確認・応急処置等を行っている。
- 委員会活動の一環として、**児童は楽しみながら学校内の安全向上に貢献**することができている。また、大人目線では見過ごしてしまう(大丈夫だろう)視点で、児童からは指摘があり、児童目線・教員目線の双方で、**学内安全点検の目の充実に寄与することが期待**できる。
- 活動に参加した児童の中には、日常的に学内の不具合箇所を教員に教えてくれる頻度が高まるといった、**安全意識・目線が育まれる効果**も期待できる。

<児童の視点を取り入れた運動場安全点検の様子>



## 導入・運用時の課題と工夫

- 無理なく取組を開始できる、継続できることを企図して、既存の生活安全委員会(児童委員会)の児童らに、その活動範囲である「運動場」の安全点検を追加で実施してもらうことにより、大きな企画・調整負荷を伴うことなく、新たな取組としてスタートできた。
- 生活安全委員会の新たな活動として、学校ホームページの日記コーナーでも、委員会活動メンバーの安全点検実施の様子を掲載することにより、学校環境の安全向上に学校全体で取り組んでいることをPRしている。
- 今後、他の児童委員会のメンバーにも、各活動範囲(清掃用具庫周辺、トイレ周辺/等)の安全点検活動をプラスワンしていくことで、児童の視点を取り入れた安全点検の範囲を拡大していく事を検討中である。

点検 教育 訓練 その他

## 横手市立横手北中学校

## 「避難訓練を通じた生徒による危険箇所の洗い出しなどを生かした安全点検」

所在地 : 秋田県横手市  
 学校種別 : 公立中学校  
 生徒数 : 326名  
 教職員数 : 39名

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 活動の概略

- 学校運営協議会において、校内の施設・設備の点検や校外の危険箇所の情報共有を実施している。
- 校外の危険箇所について、学校だけで対応することが難しい場合には、地域と連携した対処の検討を進めている。
- 避難訓練を通じた生徒の目による校内の危険箇所チェックにも取り組み、危険箇所を生徒間で共有するとともに、教職員の安全点検にも生かしている。

昨年度の学校見学会の際、学校運営協議会の委員から、校舎の屋上部分に手すりがなく、万が一生徒が立ち入ると危険ではないかとの指摘を受けたことから、教職員以外の目線での危険箇所の抽出が必要だと気づき、今年度の取組を企画しました。

実際に取り組んでみると、思っていたよりも負担感は少なく、やってみる価値はあると思います。



教頭

## 活動内容

## ◎ 学校運営協議会における校内外点検活動

- 学校運営協議会による授業参観の際に、委員とともに校内を巡視して施設や設備の点検を実施し、危険箇所の洗い出しを行っている。その結果を踏まえ、学校運営協議会の意見交換の場で改善策等の議論を行っている。
- 校外に関しても、学校運営協議会の意見交換の場で、生徒の登下校で気になっている点や危険な場所等について委員から情報提供をしてもらっている。
- 指摘された校内外の安全上の課題について、学校側は速やかに実態の確認・把握を行い、それに基づく補修・改善・指導など必要な対応を実施するとともに、必要に応じて委員の協力を求めるなど、地域との連携を進めている。

&lt;委員による校内点検の様子&gt;



&lt;学校運営協議会での意見交換&gt;



## ◎ 避難訓練を通じた生徒による危険箇所の洗い出しを安全点検に生かす

- 学校運営協議会の活動を踏まえ、教職員以外の目線による危険箇所抽出も重要と感じ、避難訓練時に生徒の目での危険箇所チェックを実施した。
- 訓練後に、気が付いた避難経路上の障害物や、校内で日頃から危険だと感じている場所をワークシートに記入し、生徒同士で共有している。
- 生徒は、日ごろは気づかないリスクに気付くなど、防災意識の向上につながっていると感じている。
- 生徒が気付いた危険箇所は、教職員間でも共有し、すぐに対応できるものは撤去や対策を講じ、日頃の安全点検の視点の検討にも生かしている。

&lt;避難訓練ワークシート&gt;

第2回避難訓練グループワークシート	
クラス	年 月 日
メンバー	
避難経路上の障害物	
平時生徒が気づく危険箇所	
その他	

## 導入・運用時の課題と工夫

- 開校11年目を迎え、担当職員のみでの定型化した点検による危険箇所の見落としの恐れや、校舎の不具合の発生など、懸念点が生じ始めていた。
- 授業参観と併せて校内点検を実施することで、効率的・効果的に取り組むことができている。地域の方の目で点検してもらうことにより、教職員目線で見落としがちな危険箇所も指摘いただけていると効果を感じている。
- 避難訓練を通じ、安全教育と安全管理を一体的に行えたことでの効果が大きい。

点検 教育 訓練 その他

## 石巻市立青葉中学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「生徒自ら安全を確保できる力の育成」

所在地 : 宮城県石巻市  
 学校種別 : 公立中学校  
 生徒数 : 182名  
 教職員数 : 21名

## 活動の概略

- 安全意識の希薄化を防ぎ、最終的には生徒自らが安全を確保できる力を持てるようにするため、生徒の自主性を重んじた安全点検や、防災学習の日における安全に関するテーマ、授業等を行っている。
- 同様に、基本的な避難訓練だけではなく、様々な状況に対する対応力を検討することからも、原子力発電所の被災による停電を想定した避難訓練を実施している。

東日本大震災当時、避難所となった本校では中学生が支給品の運搬や配布で重要な役割を担った。こうしたこともあり、地域内でも中学生に対する期待は大きく、生徒自身の安全意識の向上と、生徒自らが発災時に必要な対応を理解し、行動できることを目指して、取組を行っている。



教頭

## 活動内容

## ◎生徒委員会活動における安全点検の実施

- 各クラスから2名、合計約10名強の生徒が生活委員会に属しており、委員会活動として学校の安全点検に取り組んでいる。
- 年度当初は教員が点検に同行し、ある程度の視点などを共有した後、その後は生徒だけで安全点検を実施している。
- 簡易なものであれば生徒がそのまま補修等の対応も行うようにしている。

## ◎停電を考慮した避難訓練の実施

- 年度当初に避難経路の確認等に重点を置いた訓練を行っており、その応用的な動きの確認として、年度後半に停電を考慮した避難訓練を実施している。
- 具体的な訓練内容は、女川原子力発電所における被災を想定し、放射性物質の飛散と校内での停電、放送が利用できない想定で屋内避難を行う訓練としている。
- 訓練実施後は、Googleフォームで感想を収集し、担任が確認するだけでなく職員会議で共有しているほか、地域防災連絡協議会やコミュニティスクールにも声をかけ、参観や意見聴取を行っている。

## ◎防災学習の日（毎月11日）

- 東日本大震災から時間が経過する中で、安全意識が薄れることを防ぐため、毎月11日を防災学習の日と定めて、安全意識の向上に向けた取組を進めている。
- 総合的な学習の時間を活用し、石巻市教育委員会で作成している防災教育副読本に基づき、震災に限らず様々な安全に関するテーマについて、必要に応じて消防・警察等の協力も得ながら授業を行っている。

## 導入・運用時の課題と工夫

- 生徒による安全点検は、教員が見過ごしているような内容に、生徒が気付くことがあり、生徒自らが気を付けるべき箇所を意識しながら、学校生活を送ることにつながると期待している。
- 時間に余裕がない場合には、自分の教室を中心に点検を行う等、点検場所等はある程度柔軟性を持たせて、生徒の考えが反映できるように配慮している。
- 災害に対する備え・手段には様々なパターンがあるので、そのパターンを生徒が理解し、対応できるようにする必要がある。停電を考慮した避難訓練は、その理解を促す1つとして実施している。

点検 教育 訓練 その他

## 白石市立東中学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「実効性のある安全点検の組織的な取組」

所在地 : 宮城県白石市  
 学校種別 : 公立中学校  
 生徒数 : 312人  
 教職員数 : 25人

## 活動の概略

- 生徒会内に設置した「防災安全委員」が、毎月の活動の中で、安全点検や危険箇所に関するアンケートなどの学校安全に関する取組を推進。
- 市「学校安全の日」(4/27)に、防災安全委員が中心となり、生徒による全校一斉点検を実施。有志による追加点検も踏まえ、「学校安全マップ」を作成。
- ボランティアで生徒も参加し、PTA親子活動としての学校安全点検も実施。
- 教職員・保護者・生徒・有識者による「学校安全委員会」を設立。

生徒たちに点検の視点を身に付けてもらい、それによって自分の生活の中で安全点検ができ、大切な場所や人を守れるようになってほしいと考えています。

教職員による安全点検だけでは、当たり前と見過ごしていることもあります。生徒や保護者、地域の人に参加してもらうことで、多くの目で点検することができます。専門家の知見を取り入れられる期待もあります。



主幹教諭

## 活動内容

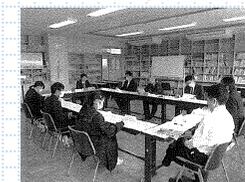
## ◎「防災安全委員」を中心とした生徒による学校安全活動

- 令和3年度に生徒会内に「防災安全委員」を設置。<生徒による学校安全活動> 毎月の活動の中で、安全点検などの学校安全に関する取組を推進。生徒が学校で危ないと感じる場所や気になる場所に関する意見を把握するため、**学校安全アンケートも実施**している。
- 市の「学校安全の日(4/27)」には、防災安全委員が中心となり、各クラスを3つのグループに分けて、全校一斉点検を実施。その後生徒有志(60名)で、避難経路となる廊下や階段、トイレなどを追加で点検し、それらの結果を踏まえて、防災安全委員で「**学校安全マップ**」を作成した。この活動は校内放送でも発信している。
- 「学校安全マップ」には、危険箇所に付箋紙が付けられており、付箋紙が**ついていないところがチェックの漏れている場所**、ということに気付くことになった。複数回実施し、透明なシートに点検結果を重ねて見られるようにしている。



## ◎「学校安全委員会」による地域住民・児童生徒との連携

- 市教委の学校安全点検マニュアルに基づき、**教職員・保護者代表・生徒代表・学区内在住の有識者を構成員とする「学校安全委員会」**を設置。
- 校内の一斉点検の結果を踏まえ、**体育館を保護者・生徒・有識者で点検**した(10名が参加)。  
 <学校安全委員会の様子>
- 教職員の点検では**想像もしなかった危険箇所の指摘**を受けたほか、地域の有識者からクラックの危険度について**専門的見地から助言**をいただいた。



## ◎「学校・地域防災連絡協議会」による活動の地域展開

- 各学区の小学校と中学校、高等学校、地域の自治会、消防団、民生委員、主任児童員、市の危機管理課が相互に知り合うための組織として「**学校・地域防災連絡協議会**」を設立、各学校における取組の共有・連携を促進している。
- 小学校区で集まって危険箇所を話し合い、学区内安全マップに反映した。

## ◎「学校安全点検マニュアル」に基づく毎月の安全点検の実施

- 市教委の学校安全点検マニュアルに基づき、全教職員に担当を2~3箇所程度ずつ割り振り、毎月20日前後に安全点検を実施している。
- 1年の前半と後半で点検箇所を入れ替えることで、「慣れ」を防いでいる。**

## 導入・実施時の工夫

- 全校一斉点検の生徒への指導を学級担任が担うことで、**教員自身が事故を防止する安全管理について学ぼうとする意識付け**にもつなげている。
- 全校一斉点検では、生徒が自発的に危険に気付けるように、点検表の点検項目にあるものだけでなく、**気付いたことを直接記載する欄**を設けた。





点検 教育 訓練 その他

## 学校法人橘学園 第一高千穂幼稚園

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「安全確保に向けた保護者からの意見収集」

所在地 : 宮崎県高千穂町  
 学校種別 : 幼稚園型認定こども園  
 園児数 : 41名  
 教職員数 : 16名

## 活動の概略

- ・ 認定こども園における施設関係者評価の一環として、保護者から園内の安全に関する意見を収集している。
- ・ 教諭・職員が保護者と日々の対話を通じて得られた気づき・課題も共有しあい、園内の安全確保につなげている。
- ・ 保護者から寄せられた意見については園内で対応方針を検討し、年度末のPTA役員会に諮っている。

保護者から意見を聞くことで、園の教諭・職員だけでは気が付かない危険を発見できました。

園児の安全について、保護者が園に任せきりにせず真剣に考えていることが再認識でき、園と保護者の間で相互の信頼関係が強くなったことも良かった点です。



副園長

## 活動内容

## ◎保護者アンケートの実施

- ・ 施設関係者評価として実施する保護者アンケートのなかで、**保護者の視点で園の安全に関する問題点等がないか確認**している。
- ・ アンケートは年末に実施し、1月に集計・取りまとめを行っている。その結果をもとに対応を要する点を洗い出すとともに、必要に応じて業者への見積依頼を行う。
- ・ 見積等を踏まえて園の方針を検討し、**2月のPTA役員会にて決議**を諮っている。なお、決議が取れなかった場合は書面で承認を得るなどしている。

## ◎保護者との対話から得られる気づきの共有

- ・ **日々、送り迎えのあいさつの場面などで保護者と必ずコミュニケーションを取り**、些細なことでも安全に関する示唆があれば収集し、園内で共有している。
- ・ 日々の対話を通じて保護者から教諭・職員に寄せられた安全に関する意見は、**その場の判断で回答するのではなく、必ず安全管理担当である副園長に相談してから方針を伝える**ことを徹底している。

&lt;PTA役員会の様子&gt;



## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ 保護者と教諭・職員の間で日々コミュニケーションを重ね、「何でも言える／何でも言ってもらえる」関係づくりをしている。心理的な安全性が確保されていると、保護者が気づきを共有することを逡巡しなくなり、危険の見落としを防げる。また、園側も意見をクレームとして受け止めずに済み、建設的な議論に発展させられる。
- ・ 園児の情緒は大人の情緒や関係性に左右される。園児の情緒が不安定であると、委縮して予期せぬ行動を取るなど安全が確保できなくなる。職員間の闊達なコミュニケーションによる明るい園づくりは、保護者からの意見の吸い上げをしやすくするためだけでなく、園児の安全を守るためにも非常に重要である。

点検 教育 訓練 その他

## 東松島市立赤井小学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「地域と学校の協働で行う安全点検・避難訓練」

所在地 : 宮城県東松島市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 146名  
 教職員数 : 14名

## 活動の概略

- ・ コミュニティスクールの実施日に合わせて、地域の方・教職員合同で校舎外周・遊具と校舎内のグループ安全点検、危険箇所等の対応策の検討に取り組んでいる。
- ・ 避難訓練を地域の方に見学していただき、気づいた点等のフィードバックを受け、実施方法の改善に取り組んでいる。

近隣の赤井南小学校の取組が文部科学省の資料に掲載されているのを見て、私たちもできるのではないかと思います。思い立ち、早速今年から実践してみました。

地域の方に安全点検や避難訓練へご参加いただき、教職員同士の目では甘くなりしがちな点への指摘や、柔軟な発想による対応策の提案などをいただいています。



教頭

## 活動内容

## ◎地域の方と教職員の合同でのグループ安全点検

- ・ グループ安全点検はコミュニティスクールの実施当日に実施しており、コミュニティスクールの安全・防災部員を中心に、委員やPTAの方に声をかけて参加を募っている。
- ・ 参加者・参加教職員はまず校長室で打合せを行い、その後、校舎外周・遊具と校舎内を巡回するグループに分かれて校内の点検を行う。点検後は校長室に戻り、それぞれの気づいた点の振り返りと対応策を話し合うといった流れで実施している。
- ・ 校内巡回中には、安全点検や危険箇所のチェックにとどまらず、以前の学校の様子や昔からの変化を地域の方が話したり、逆に教職員が近年の安全対応や施設・設備の改修について聞かれことに答えたりなど、地域の方と学校の相互理解を深める場としても機能している。

&lt;グループ安全点検の様子&gt;



## ◎避難訓練の巡視・講評

- ・ 避難訓練にコミュニティスクールの委員を招き、訓練の様子の見学やフィードバックと、子供たちへの指導・講評をお願いしている。
- ・ 避難訓練では、教職員は自分の担当する範囲だけに目が向きがちであるが、地域の方から教員によって指示の仕方が異なる点などを指摘いただき、俯瞰的な視点の重要性を改めて認識した。次の回から俯瞰的に訓練をチェックする担当の教職員を配置するなど、避難訓練の実施方法の改善にも生かしている。

## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ 学校における安全点検の参考資料(文部科学省、令和5年7月)に、市内の赤井南小学校での地域住民による安全点検の取組が掲載されており、同様に既存のコミュニティスクール組織を活用して実施ができると考え取組を開始した。
- ・ 平日ということもあり参加者集めに苦労した。当初はコミュニティスクールの安全・防災部に限定していたが、声をかける範囲を広げ、必ず誰かしら地域の方には参加いただけるようにしている。紙の文書での連絡が基本であるが、電話で参加をお願いすることもある。
- ・ 地域には自治体の元職員や主婦・夫、建築関係の仕事の方など様々な方がいて、その多様な目線で校内を点検いただけることは非常に大きいと感じている。

点検 教育 訓練 その他

## 明石市立高丘東小学校

## 「保護者参画の整頓・整理活動」

所在地 : 兵庫県明石市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 280名  
 教職員数 : 35名

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 活動の概略

- ・ オープンスクール(年2回)に、保護者有志のボランティア組織主体で校内美化、清掃、整理整頓活動を実施。
- ・ 義務感によって活動してもらおうと持続しないため、可能な範囲で活動してもらおうスタンスを共有。

学校のアンケート調査における教育環境の問いへの回答等から「建物は古くても、整理整頓の行き届いた学校環境」を目指すことに協力することが一つの意見として挙がり、校内美化、清掃、整理整頓活動につながりました。



教頭

## 活動内容

## ◎PTA休会後の保護者有志によるボランティア組織による校内美化、清掃、整理整頓活動

- ・ PTA活動の原点である「学校の応援団」としての姿勢・思いを継承した保護者有志によるボランティア組織「高丘ひがしっ子育て会」が組成された。
- ・ 2023年のリーダー会で、育成会としての取組アイデアを、学校側と協議して実施された。
- ・ 学校アンケートの「学校は児童の学習・生活の場にふさわしい教育環境を整えていると感じられますか。」の問いへの回答等から「建物は古くても、整理整頓の行き届いた学校環境」を目指すことに協力することが一つの意見として挙がった。
- ・ 上記意見がきっかけで、オープンスクール時に清掃・整理整頓活動が実施されることになった。
- ・ オープンスクールが11月、2月の年2回開催され、その際に育成会メンバーでグループを組成して、校内美化・清掃・整理整頓活動を行ってもらった。

(各クラス3~4人で、全体で50~60人の保護者による取組となった。全校生徒280人であるため約2割の保護者の協力があつた。)

<保護者有志による清掃・整理整頓活動の様子>



## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ リーダーの方の引継ぎが課題である。幸い来年はリーダーのお子さんが在学されるが、活動の継続に向けてはメンバーの中でも課題認識がある。
- ・ 「せねばならない」というスタンスでは、負担が大きく、活動継続に支障が出るため、持続可能であることを最優先に、「できる人が」「できるときに」「できることを」というスローガンを全体で共有した。可能な範囲で「学校の応援団であり続ける」というスタンスで活動を企画している。
- ・ ボランティア組織の活動が始まったばかりであり、担当する教頭が異動になっても、切れ目なく対応ができるよう、学校内での引き継ぎを行っている。

点検 教育 訓練 その他

## 伊佐市立山野小学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「学校運営協議会と連携した安全点検」

所在地 : 鹿児島県伊佐市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 36名  
 教職員数 : 14名

## 活動の概略

- 学校運営協議会委員に施設参観をしてもらうことで、危険箇所や気になる箇所が無い、気づきや指摘をもらっている。
- 委員には施設管理に知見を有する方もおり、専門的な見地からの助言がもらっている。
- そのほか、保護者(おやじの会)の活動の一環としても学校施設の点検・補修に取り組んでくれている。

学校安全を守るための目線が増えるだけではなく、専門的な視点からの指摘をいただくことで、「何故修繕が必要なのか」という説明力の向上にもつながっています。

限られた時間の中でアドバイスをいただくためには、まず学校側から課題や悩み事を共有するということが大切だと考えています。



校長

## 活動内容

## ◎学校運営協議会開催時の施設参観

- 年に5回開催される学校運営協議会では、委員に学校や子供たちの様子を知ってもらうことを目的に、**授業参観及び施設参観を行う**こととしている。
- そのほか、年度当初に1回、校舎外の樹木やフェンス、プール、校庭、遊具等を見られている。
- いずれも基本的には目視の範囲で、気づきや指摘をいただいている。
- 管理職から安全点検も含めた学校施設に関する悩み事を共有**するようにしており、その悩みに対してアドバイスが得られることもある。

## ◎専門的な見地からの助言

- 学校運営協議会委員には、元園芸職人であった方や、建築関係の仕事をされていた方など、**施設管理に知見を有する方にも入っていた**きてきた。
- そのおかげで、例えば樹木の枝が伸びて危険という課題があった際には、すぐに地域の専門業者に繋いでもらうことができた。
- また、施設参観中に校舎内の窓の揺れについて相談したところ、厚さの合わないガラスがはめられていることを即座に指摘してくれ、迅速な修繕につながったこともあった。このような**専門的な見地からの助言があることは、教育委員会へ修繕依頼を行う際の、説得力の向上につながっている。**

&lt;地域による樹木選定の様子&gt;



## ◎保護者との連携も

- 古い校舎であるため、保護者の方々の安全管理の意識が高く、「おやじの会」の活動内容の**1つとして、「学校施設の点検・補修」**が位置付けられている。
- メンバーで対応可能な範囲で補修にも対応してくれ、例えばプールの更衣室のコンクリートが劣化した部分に、板を貼る作業などを実施してもらった。
- 補修資金は学校からも拠出しているが、PTAバザーなどを活用して、**おやじの会独自でも資金調達**してくれている。

## 導入・運用時の課題と工夫

- 学校運営協議会の会議時間は1回あたり90分であり、他の様々な議題もあるため、施設点検に多くの時間は確保できない。細かい点のチェックまで求めすぎず、できる範囲・分かる範囲で良いという方針を崩さないようにしている。
- あくまで学校の実情を知ってもらうための1つの方法として考えており、学校運営協議会委員にとって過負担にならないよう留意している。

点検 教育 訓練 その他

## 函館市立中央小学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「専門業者の視点を教職員に還元」

所在地 : 北海道函館市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 206名  
 教職員数 : 22名

## 活動の概略

- 専門業者と連携し、プール点検の視点をマニュアル化。口伝えとなっていた点検の視点やノウハウを文書化した。
- 専門業者による遊具の点検報告書の内容は、教職員に共有し日常の安全点検に活かしてもらっている。
- 点検の視点については、専門業者の視点、児童の視点、文科省の通知など様々な情報を収集して更新している。

専門業者による安全点検は、単なる外部委託ではなく、それによって教職員の目を養うことにもつなげていきたいと考えています。

また、専門業者の視点を参考にすることは勿論ですが、児童生徒の視点、通学路であれば保護者や地域住民の視点など、複数の目で見るということも大事にしています。



教頭

## 活動内容

## ◎専門業者と連携し、プール点検の視点をマニュアル化

- プールの中止期間を活用し、専門業者による重点的な点検を行うとともに、**プール管理・点検の視点のマニュアル化**に取り組んだ。
- プールの管理・点検は、塩素濃度の調整にはじまり、注水・排水の処理、排水口の確認、濾過装置の確認など専門的な知識を必要とするが、いずれも体育部の教員が実施してきた。
- これまで、**点検箇所やノウハウについて口伝えとなっていた点**に課題を感じていたため、専門業者と相談しながらマニュアルとして整理した。
- マニュアル化により、**若手教員や異動してきたばかりの教員でも対応しやすくなった。**

&lt;専門業者との安全点検の様子&gt;



## ◎視点を更新するための情報収集

- 学校の安全点検は質を高め続けなければならないものと認識している。
- 専門業者による指摘を参考とすることはもちろん、文科省の通知や消費者庁の提言などがあれば随時確認し、自校でも取り入れるべき点がないか検討している。
- 中央小学校では毎日の掃除の時間の終わりに「振り返りの時間」を設けており、そこで児童から「すのこのねじが外れている」などの気づきが寄せられることもある。**子供の視点からの指摘も非常に貴重である。**

## ◎遊具点検報告書の視点を、教職員に共有

- 遊具の点検について、年に1回地元業者の公園施設製品安全管理士による専門的な点検を行う。
- 点検報告書では点検箇所ごとに写真付きで指摘・報告があがる。日常の教職員による点検の際は、**報告書中の指摘箇所を重点的にチェックするほか、点検の視点を参考にしている。**

## 導入・運用時の課題と工夫

- 専門業者による安全点検は、教職員では難しい詳細なチェックができる点で有効であるが、専門業者に任せきりにしてしまうと、教員の意識が養われず良くないと考えている。
- そのため、遊具の点検などでは、教頭や事務職員が立ち会い、共に確認を行っている。今後は、他の教職員にも同行してもらう予定である。

# 「安全点検表のデジタル化で集計作業等を軽減 (Googleフォームの活用)」

所在地 : 埼玉県戸田市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 689名  
 教職員数 : 42名

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 活動の概略

- 月1回の安全点検の点検表を、Googleフォームを活用してデジタル化した。入力項目は簡素化しつつ、異常がある箇所については詳細の内容を記入する方式である。
- これにより、安全管理担当のとりまとめ作業が大きく効率化した。
- また、安全点検はできるだけ児童のいる時間に児童と共に行うことで、児童の視点を取り入れるとともに安全教育にも寄与している。

WEBフォームにするにあたり、入力項目を簡素化しましたが、チェックの内容も簡易的になってしまわないように留意しています。

チェック項目（視点）のリンクを貼って確認できたり、児童と共に確認をする機会を設けたりしていることもその工夫の一つです。



校長

## 活動内容

### ◎Googleフォームによる点検表作成

- 月1回実施する安全点検の点検表をデジタル化。
- 普段の授業等でも活用していたGoogle Classroomの中に「安全点検」の部屋を作成し、点検表のWEBフォームを格納。教職員は、毎月そこから点検表フォームにアクセスし、点検結果を入力。
- 点検表フォームでは、実施月、点検場所、担当者、異常の有無を入力し、「異常あり」である場合は、さらにその具体的内容を記入するページが展開する。
- 点検場所ごとにチェック項目（視点）がまとめられており、点検表フォームのリンクから飛べるようになっている。異常の有無の判断には、この視点も参考にされている。
- なお、このチェック項目は埼玉県教育委員会の資料を基に学校独自にアレンジしたものである。

<専門業者との安全点検の様子>

No.	点検項目	点検方法	目	打	点	集	作
			視	録	検	業	業
1	窓や扉に異常はないか。(損傷、鍵じまり、外れやすくないか)	○	○	○	○	○	○
2	カーテンやレースに損傷はないか。	○	○	○	○	○	○
3	ペラダに損傷はないか。	○	○	○	○	○	○
4	教室備品 (TV・扇・ロッカー・清掃用具入れなど) に損傷はないか。転倒防止がされているか。	○	○	○	○	○	○
5	電気製品やコンセントの損傷や不良箇所はないか。	○	○	○	○	○	○
6	黒板またはホワイトボードに破損や故障はないか。	○	○	○	○	○	○
7	床に異常はないか。(浮き、破損、ささくれ、何か刺さっていないか)	○	○	○	○	○	○
8	内壁に剥離や亀裂はないか。	○	○	○	○	○	○
9	フックなどの金属球が身体に触れて危険はないか。	○	○	○	○	○	○
10	掲示の面紙等がしっかりととめられているか。	○	○	○	○	○	○
11	机・椅子のささくれや、ネジの緩みがないか。	○	○	○	○	○	○
12	教卓・教壇の破損、ささくれはないか。	○	○	○	○	○	○
13	配膳台は損傷していないか。	○	○	○	○	○	○
14	エアコンや扇風機の破損や不具合はないか。	○	○	○	○	○	○
15	換気扇は正常に作動し、室内の換気は適切に行われているか。	○	○	○	○	○	○
16	個人ロッカーは適切に使用されているか。(破損・中の清掃など)	○	○	○	○	○	○
17	ゴミ箱が破損したり、悪臭を発生していないか。	○	○	○	○	○	○
18	管理責任者は明確に表示されているか。	○	○	○	○	○	○
19	天井の破損やシミ、雨漏りはないか。	○	○	○	○	○	○
20	放送設備は、常に正常に機能しているか。	○	○	○	○	○	○

### ◎とりまとめ作業の効率化

点検結果は自動的にスプレッドシート上に一覧化されるため、これまで手作業で行っていたとりまとめ作業が大いに効率化した。

また、WEBフォームになったことで、点検項目の見直し、修正なども行いやすくなった。

### ◎児童の視点も取り入れる

教室の安全点検などは、できるだけ児童がいる時間に、児童が使うものを中心に一緒に確認を進めてもらうよう、教職員に周知している。

児童の危機管理の目を養うことも期待した工夫である。

### 導入・運用時の課題と工夫

- デジタル化に対して積極的でない教職員もいるが、「簡潔に入力できるようにする」「できるだけスクロールを少なくし一画面で完結させる」などの工夫を講じ、できるだけ使いやすいツールとなるようにした。
- デジタル化によって安全管理担当の作業が大きく効率化するというメリットをきちんと伝えることも有効である。これには、時には管理職の後押しも重要である。

点検 教育 訓練 その他

## 秩父市立秩父第一中学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「安全点検のDX化による教職員の負担軽減」

所在地 : 埼玉県秩父市  
 学校種別 : 公立中学校  
 生徒数 : 546名  
 教職員数 : 53名

## 活動の概略

- 2023年6月より月1回の定期安全点検のDX化に取り組んだ。
- 点検箇所には貼られる二次元コードを読み取ると、点検結果を記入する回答フォームが立ち上がり、回答内容は自動的にスプレッドシート上に一覧化される。
- DX化により、情報の集約・管理が効率的に行えるようになり、教職員(特に担当と管理職)の負担軽減につながっている。

DX化によって点検結果が自動的に一覧化されるようになり、担当がとりまとめ作業を行う必要がなくなった点に、最も負担軽減のメリットを感じています。

また、点検結果に写真が添付できるようになった点も、状況の把握が行いやすくなり効果的です。



教頭

## 活動内容

## ◎安全点検のDX化

- 担当者(教職員)が、点検箇所に貼られた二次元コードをタブレット等で読み取ると、該当箇所の点検結果を記入する回答フォーム(Googleフォーム)が立ち上がる。
- 回答フォームでは、3段階評価及び備考欄への記入に加え、タブレット等で撮影した写真を複数枚アップロードできる。

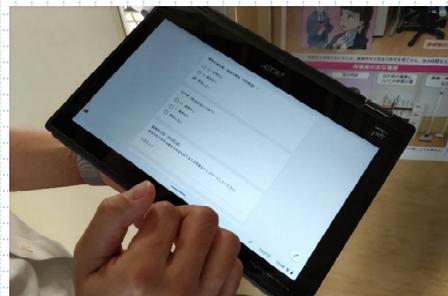
&lt;二次元コードの例&gt;



&lt;点検の様子(二次元コードの読み込み)&gt;



&lt;入力画面&gt;



## ◎スプレッドシート上での情報集約・管理

- 各点検箇所の点検結果は、回答フォームを通じてスプレッドシート上に一覧化され、効率的に情報を集約できるようになった。
- 実施/未実施の管理がしやすくなったため、リマインドが行いやすい。
- 各月ごとに一覧化されることで、月単位での比較も行いやすくなっている。紙の点検表を1枚1枚保管・確認していた時と比べると、格段に経年変化を追いやすい。

## 導入・運用時の課題と工夫

- 民間企業の方が別件で学校に訪れた際に、管理職が紙の点検表に押印し続けている姿を見て、安全点検のDX化を提案してくれたことがきっかけとなった。
- 教職員の負担軽減につながるよう、普段の授業でも活用するGoogle Classroomの環境下で回答フォームとスプレッドシートを構築することで、教職員にとってアクセスしやすいシステムになるよう留意した。これは校内のネットワーク・セキュリティ環境の中で活用可能なものとする点でも有効であった。
- それでも、教職員によってデジタル機器の使用に関して得手不得手があり、全員がDX化の恩恵を感じているとは言い切れない。そのような中でも、デジタル機器が得意な教職員とそうでない教職員がペアを組んで点検を実施する等の工夫が生まれている。
- 回答フォームに記入するにはインターネットにつながっている必要があり、校内のネット環境面では課題も残る。

点検 教育 訓練 その他

## 豊岡市立港小学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「不審者侵入防止を視点とした安全点検」

所在地 : 兵庫県豊岡市  
 学校種別 : 公立小学校  
 児童数 : 84名  
 教職員数 : 17名

## 活動の概略

- ・ 不審者侵入防止のため、校門の施錠を全教職員が共有し、安全管理を行っている。
- ・ 施錠の状況とともに、校門に異常がないかも安全点検している。
- ・ 校門の施錠以外に、不審者侵入時の対応も定めている。
- ・ 教職員による不審者対応訓練時にも、教職員間での共有を図っている。

裏門が大きな道とつながっており、観光客も多い場所だったため、児童が盗撮された事案を機に、門の開閉の管理を徹底しました。

学校を訪問される方から施錠されていることに対して、理解いただきにくいこともありましたが、「子供の安全のため」ということで現在まで取組が続いています。



教頭

## 活動内容

## ◎校門の施錠管理

- ・ 死角となり、スクールバス通いの児童が登下校する裏門は、毎日開閉し下校指導する担当を当番制で実施している。その際、当番に任せきりにせず、全体の確認は教頭が実施している。裏門に異常がないかをその都度確認している。
- ・ 児童が登下校時に利用する正門の開放については、校内でルールを定め、教職員間で共有し、不審者侵入防止も念頭に安全管理に努めている。
- ・ また、正門の開閉については、学童ボランティアの方々とも共有し、安全管理の徹底に努めている。

## ◎不審者対応を盛り込んだ「危機管理マニュアル」

- ・ 不審者侵入時の対応を危機管理マニュアルで定めている。
- ・ 不審者侵入時の対応については、児童とも共有するなど、学校全体で安全対策に努めている。
- ・ 緊急時に、サンダル履きではいざという時にすぐに行動ができないため、教員は常に校舎内でも靴を履くよう意識している。
- ・ 教職員による不審者対応訓練を実施し、その際、不審者侵入を防止する校門の施錠等の在り方等について、教職員で確認・共有している。

&lt;裏門施錠の様子&gt;

危機管理マニュアル

豊岡市立港小学校



## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ 全教員が取組内容を把握している。教頭が異動となった際も引き継ぎ書を作成することで引き継ぎができるようにする。
- ・ 不審者対応という防犯の側面と、校門を閉鎖すると地域に対して閉じた学校と見られる可能性もあり、地域と協力して児童を育成する取組とのバランスをとっていく必要がある。
- ・ 加えて、災害時は避難を考えなければならず、その場合校門は開いている方が望ましい。防犯と防災のバランスも検討が必要である。

点検 教育 訓練 その他

## 学校法人旭幼稚園

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「映像記録を生かした日常の安全点検等の取組」

所在地 : 東京都練馬区  
 学校種別 : 私立幼稚園  
 園児数 : 303名  
 教職員数 : 31名

## 活動の概略

- ・ 園内22か所にカメラを設置し、園内の様子を映像で記録。園内で事故やヒヤリハット事例が起こった際の情報共有・要因分析等に活用している。
- ・ カメラの設置に際しては、事前にプライバシー・ポリシー等を明確に定めて関係者に説明を行うことで、不安感の払しょくに努めた。
- ・ 教職員は、アプリケーションからいつでも映像記録を確認可能である。

映像記録によって、事故への対応や要因分析が行いやすくなり、事故後、教職員が共有しながら、今後の教育活動や、事故の再発防止につなげることができます。また、映像記録を活用したことで、保護者の方への説明資料として活用できるなど、副次的な効果も得られています。



副園長

## 活動内容

## ◎安全管理に生かすためカメラで映像を記録

- ・ 幼稚園における園児の日常的な安全管理に映像記録を活用するため、**教室を含めた園内複数箇所にカメラを設置**している。(2023時点で22台)。
- ・ カメラの視野角によって映る範囲が異なるため、一部屋ずつ確認しながらどのカメラをどの位置にどの角度で設置するかを丁寧に検討している。

&lt;設置しているカメラ&gt;



## ◎教職員への情報還元

- ・ 教職員は、業務用のスマートフォンにアプリケーションを入れ、いつでも映像記録を確認できるようにしており、**事故等の詳細な共有や、その後の要因分析等の迅速な対応が行いやすくなっている。**
- ・ 事故発生後に**保護者へ事故の報告する際にも、事故の要因を分析した上で、報告できるように**なっている。

## ◎事故発生の的確な要因分析を日常の安全点検に生かす

- ・ 例えば、園児が園庭の穴につまずいて転倒する事故が発生した際などに、**映像記録を確認することによって、園児の行動等の把握ができ、危険箇所・状況等の気付きに繋がることも期待できる。**
- ・ 職員会議においても、**園内で発生した事故やヒヤリハット事例について、映像記録から事故発生の要因を分析し、その結果等を共有することで、以降の教訓としている。**こうした教訓は、日常の安全点検等にも生かすことが期待できる。

## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ トイレなどのプライベート空間は映像記録の対象外とすることを明確に打ち出したほか、**プライバシー・ポリシーとして、映像記録の保管期間(2週間)と使用用途を明確に定めた。**これらの内容について丁寧に保護者や教職員に説明を行ったことで、導入時に懸念された抵抗・反発はなかった。
- ・ 今後に向けては、カメラやシステムの管理が属人的になっている点が課題である。

点検 教育 訓練 その他

さいたま市立西原小学校

子供	PTA・地域	専門家
デジタル	視点拡充	PDCA
		その他

## 「あんぜんマップ」による危険個所の可視化

所在地 : 埼玉県さいたま市  
 学校種別 : 小学校  
 児童数 : 535名  
 教職員数 : 52名

### 活動の概略

- 市教委のひな型を踏襲した安全点検カードを活用して安全点検を実施。安全主任が毎年度点検結果を集約し、点検項目を更新している。
- 養護教諭の発案で、校内で起きたけがや事故の件数等を集約した「あんぜんマップ」を作成・掲示し、児童の啓発や指導に活用している。
- PTAによる通学路安全マップや、岩槻区役所と連携した地域のヒヤリハットマップなどを作成・活用している。

市教委のひな型を踏襲した安全点検カードを使って、毎月安全点検を行っています。

けがや事故の情報は、養護教諭に集約し、「あんぜんマップ」としてまとめ、掲示することで、児童への啓発や指導に役立てています。



教頭

### 活動内容

#### ◎安全点検カードによる点検と毎年度の見直し

- 市教委で点検表のひな型を出しているため、それを踏襲し、安全点検カードを作成・活用している。
- 点検項目等の見直しについては、年度末に安全主任がその年の点検結果を集約し、それを踏まえ必要な項目を点検表に足したり、重点項目を考えたりして更新している。

#### ◎「あんぜんマップ」によるけが情報の発信・共有

- 養護教諭の発案で、校内(校舎内・校庭)で起きたけがや事故の件数、時間、場所等を集約した「あんぜんマップ」を作成し、保健室の前に掲示している。掲示物にするだけでなく、データとしても管理している。
- 子供たちがけがをしやすい場所や期間、けがの多い学年などが可視化され、子どもたち自身が気を付けて遊ぶようになり、担任の先生なども指導がしやすくなった。

#### ◎PTAや区役所と連携した通学路危険マップの作成

- 保護者が通学路の危険個所をチェックし、PTAが通学路安全マップを作成している。また、岩槻区役所と連携し、ヒヤリハットマップを作成している。

<あんぜんマップ>  
 (校舎(階別)・校庭におけるけがの状況)



<安全点検カード>

令和5年度 安全点検カード(さいたま市立西原小学校)		点検日は毎月10日(原則)	
点検項目	点検者	4月	5月
1 校舎の階上への移り分岐に高さはないか	養護教諭	●	●
2 廊下につまみ、踏傷、突きはたきはないか	養護教諭	●	●
3 廊下につまみ、踏傷、突きはたきはないか	養護教諭	●	●
4 廊下につまみ、踏傷、突きはたきはないか	養護教諭	●	●
5 児童下り階段に高さはないか	養護教諭	●	●
6 校舎の階上への移り分岐に高さはないか	養護教諭	●	●
7 校舎の階上への移り分岐に高さはないか	養護教諭	●	●
8 校舎の階上への移り分岐に高さはないか	養護教諭	●	●
9 児童下り階段に高さはないか	養護教諭	●	●

#### 導入・運用時の課題と工夫

- 教職員のTeamsにおいても、事故やけがの情報を共有している。1年間の状況を養護教諭がまとめ、職員会議で共有している。
- 新しい教員が来たときには、「あんぜんマップ」やそのデータをもとに、危険のある場所やマップの使い方等について伝えている。

点検 教育 訓練 その他

## さいたま市立大宮北高等学校

子供	PTA・地域	専門家	
デジタル	視点拡充	PDCA	その他

## 「校内外の様々な「安全」に関する情報の共有」

所在地 : 埼玉県さいたま市  
 学校種別 : 公立小学校  
 生徒数 : 968名  
 教職員数 : 93名

## 活動の概略

- ・ 他校での事故やヒヤリ・ハット事例などについて、グループウェアを通じて各教職員に提供している。
- ・ 傷病者発生時対応訓練で、校内におけるけがの種類や発生場所を示した「けがマップ」の情報共有を行っている。
- ・ さいたま市における「ASUKAモデル」に基づいた訓練、講習を実施している

学校現場では他校での情報が共有されにくい状況にあり、また高校では教職員が職員室に集まることも少ないため、コミュニケーションのきっかけとしても情報共有を開始しました。

職員間で学校安全に関する情報共有をする機会の増加につながっています。



教頭

## 活動内容

## ◎グループウェアを活用した安全に関する情報の共有

- ・ 市教育委員会からの情報や新聞等のニュースで他校での事故やヒヤリハット事例などの情報について、教頭から教職員向けに、**注意喚起も兼ねた情報共有**を行っている。
- ・ 情報共有のタイミングは不定期で、いつでも教員が確認できるように、朝礼ではなく、校内の**グループウェア**を活用しており、概ね当日中に教員は情報を確認している。

## ◎けがマップ等のデータの活用

- ・ 傷病者が発生した場合の指揮系統や役割について、具体的な事象にもとづいて具体的に行動する「傷病者発生時対応訓練」を毎年実施している。
- ・ また、**校内で発生したけがの種類や発生場所を示した「けがマップ」**を保健室が中心となって作成している。
- ・ 傷病者発生時対応訓練にあわせて、**実際に上述の「けがマップ」の内容を踏まえたシナリオ想定や、「けがマップ」の内容の共有**を行っている。

## ◎ASUKAモデルに基づく救命講習

- ・ さいたま市では、過去発生した事故の教訓を踏まえ、二度と事故を起こさないための**救命救急対応マニュアル**となる「ASUKAモデル」を構築しており、その一環として**普通救命講習をすべての教員対象に実施**している。
- ・ **講習に必要な「普及員」についても、各学校で確保**するよう取り組んでおり、本校の場合、初任を終了した2年目職員と保健体育科の教員が普及員の研修を受け、普通救命講習の実施にあたっている。

平成24年年度  
 体育活動時等における  
 事故対応テキスト  
 ～ASUKAモデル～

【報告1】  
 児童死に事故再発防止に向けた  
 事故対応分析報告書  
 ～教育実践者の視点に立って～

【報告2】  
 さいたま市立小学校児童事故対応  
 検証委員会報告

さいたま市教育委員会  
 平成24年9月30日

## 導入・運用時の課題と工夫

- ・ グループウェアの利活用は、本校が市内でもIT先端校として早い段階からIT機器の導入は進んでいたことから大きな課題はなかった。
- ・ 情報共有にあたっては、高等学校向けの情報を選択することと、例えばマラソン大会の時期には車との接触事故の情報を選ぶといった発信する時期を選ぶことの2点に留意している。

